

空知信用金庫・第153回地域企業景気動向調査

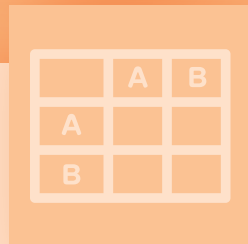
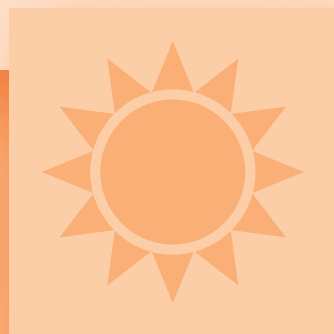
景況レポート

2024.10

このレポートは、空知信用金庫が岩見沢・美瑛・三笠・栗山・由仁・長沼・南幌・江別に所在の地元企業のご協力により、令和6年7月～9月の景気の現状と令和6年10月～12月の見通しを調査したものです。

令和6年10月末日

空知信用金庫・地域支援部
岩見沢市3条西6丁目2番地1
電話 (0126) 22-1171



第153回 地域企業景気動向調査要項

1. 調査地域

岩見沢市・美瑛市・三笠市・江別市・栗山町・長沼町・南幌町・由仁町

2. 調査対象期間

令和6年7月～令和6年9月期（実績） 令和6年10月～令和6年12月期（予想）
令和6年9月2日～9月6日に実施

3. 調査の方法

面接・聞き取りによる調査

標本（調査対象企業）の抽出法としては、標本の業種・規模等の基本属性が、母集団（当金庫融資取引先）の属性に見合う基準にもとづく、有意抽出法によるもの。

4. 業況判断指数

D・I値による判断

D・Iとは？ Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略
企業の業況判断等を指数化したものであり、景気動向の方向性を示したものだ。
D・Iが高ければ好景気、低ければ不景気であると判断できます。

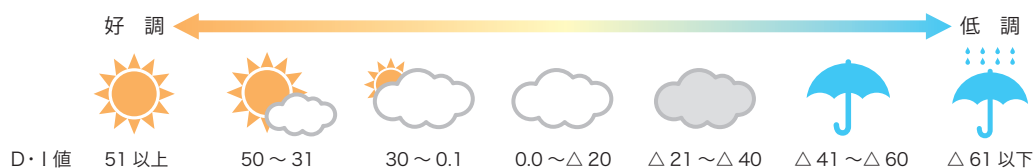
D・I値 = 「増加・やや増加・上昇の割合」 - 「減少・やや減少・下降の割合」

5. 調査対象企業数・有効回答数の内訳

区 分	調 査 対 象 企 業	有 効 回 答 数	有効回答率 (%)
製 造 業	24	23	96
卸 売 業	14	13	93
小 売 業	57	54	95
サ ー ビ ス 業	32	30	94
建 設 業	43	43	100
不 動 産 業	7	7	100
運 輸 業	17	17	100
農 業	28	27	96
計	222	214	96

6. 天気図の見方

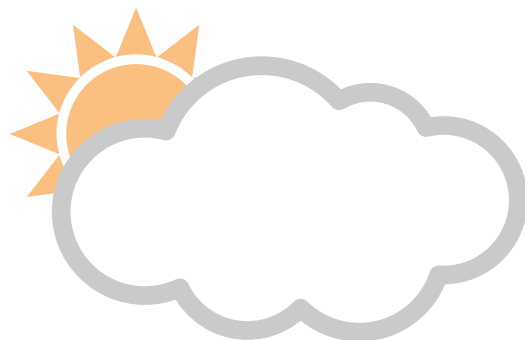
景気指標を総合的に判断して作成



7. 特別調査

「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」

総合



概況

コストの上昇分は価格転嫁、景況は緩やかな上昇

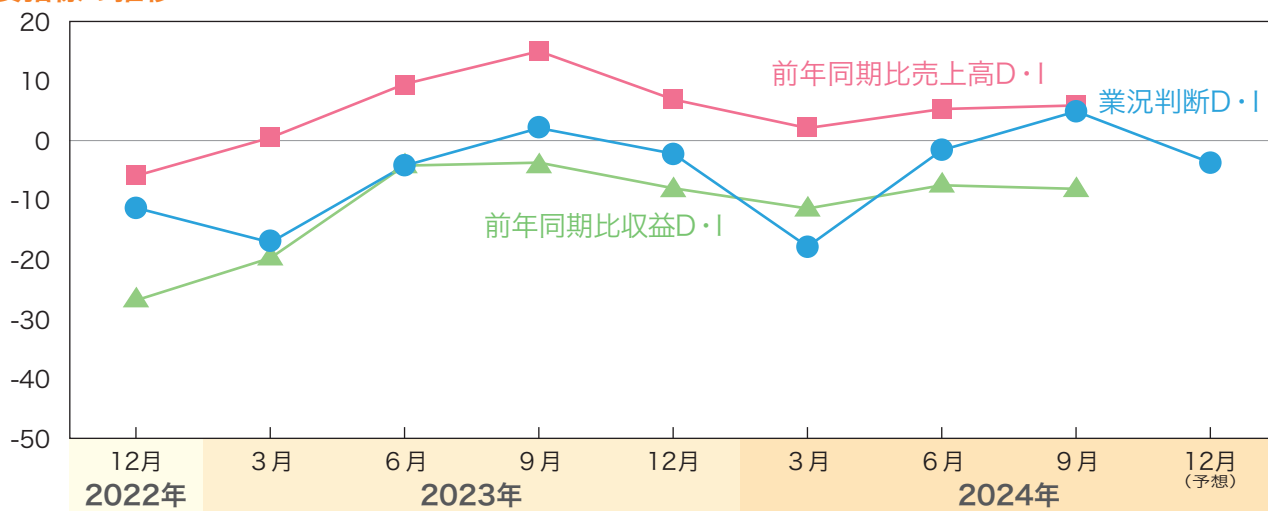
今期の業況判断指数（D・I値）は、4.9と前期（4月～6月）より6.5ポイント上昇し、4期ぶりにプラス圏内へ転じました。業種別に見ますと小売業で横這い、不動産・サービス業で下降し、他の5業種は前期と比べ上昇、うち3業種でプラスに転じました。売上高D・I値は5.9ポイントと前期比0.6ポイント改善しましたが、運輸・卸売業で上昇、製造・不動産業で下降し、それ以外の4業種は横這いでした。収益D・I値は△8.1と前期比0.6ポイント下降、運輸・農業で上昇、他の6業種はいずれも下降しています。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	2.1	△1.6	4.9	△3.7
売上高D・I	15.0	5.3	5.9	—
収益D・I	△3.7	△7.5	△8.1	—

来期の見通しについて

来期の予想業況判断指数（D・I値）は△3.7で、今期より落込みとなる見通しです。業種別では、卸売業、運輸業、農業で横這い、他の5業種で下降を見込んでいます。主要指標は、いずれも前年同期比横這いですが、経営の問題点として特に人材不足が上げられており、先行きへの不安が反映されたと推測されます。

主要指標の推移



前期比D・Iの推移

○販売価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	13.0	34.8	8.7	4.3
卸 売	35.7	57.1	38.5	38.5
小 売	46.2	31.5	27.8	20.4
サービス	24.1	26.7	26.7	16.7
建 設	51.2	41.9	30.2	20.9
不 動 産	14.3	14.3	0.0	△28.6
運 輸	41.2	35.3	35.3	5.9
農 業	33.3	29.6	40.7	37.0

※サービス業は料金価格、建設業は請負価格、運輸業は料金単価、農業は販売単価。

○仕入価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	39.2	47.9	65.2	43.5
卸 売	28.6	64.3	38.5	30.8
小 売	57.4	44.4	38.8	27.8
サービス	55.2	40.0	46.7	33.3
建 設	69.8	60.5	48.8	30.2
不 動 産	14.3	—	28.6	14.3
運 輸	88.2	64.7	35.3	17.6
農 業	66.7	55.6	48.1	44.4

※製造業は原材料価格、サービス業・建設業は材料価格、運輸業は燃料価格、農業は生産資材等価格。

○人手過不足D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	△26.1	△30.5	△30.4	△21.7
卸 売	△35.7	△42.9	△30.8	△23.1
小 売	△20.4	△24.0	△22.2	△22.2
サービス	△44.8	△33.3	△33.4	△40.0
建 設	△58.1	△39.6	△34.9	△37.2
不 動 産	△14.3	△14.3	△14.3	△14.3
運 輸	△64.7	△64.7	△52.9	△52.9
農 業	—	—	—	—

○残業時間D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	8.7	4.4	4.3	△4.3
卸 売	△7.1	△21.4	△7.7	△7.7
小 売	△1.9	—	△1.9	△3.7
サービス	17.2	3.3	6.7	0.0
建 設	4.7	2.3	△7.0	△2.3
不 動 産	—	14.3	—	—
運 輸	11.8	△11.8	△11.7	△11.8
農 業	—	—	—	—

○借入金の動き・難易度

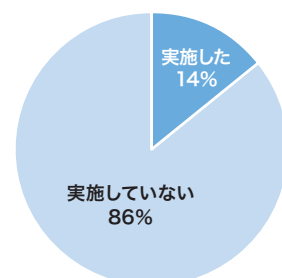
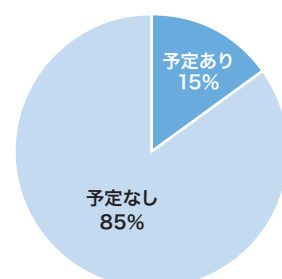
(%)

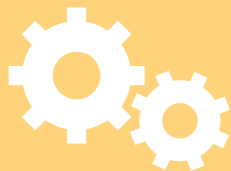
	借入金の実施	借入金の予定	民間金融機関からの借入難易度			
	し た	あ る	容 易	変わらない	難しい	該当なし
製 造	17.4	21.7	17.4	60.9	13.0	8.7
卸 売	23.1	15.4	15.4	84.6	—	—
小 売	16.7	13.0	3.7	70.4	9.3	16.6
サービス	10.0	13.3	10.0	70.0	3.3	16.7
建 設	34.9	16.3	23.3	58.1	9.3	9.3
不 動 産	28.6	—	—	85.7	14.3	—
運 輸	23.5	23.5	11.8	70.6	5.9	11.7

○設備投資の動き

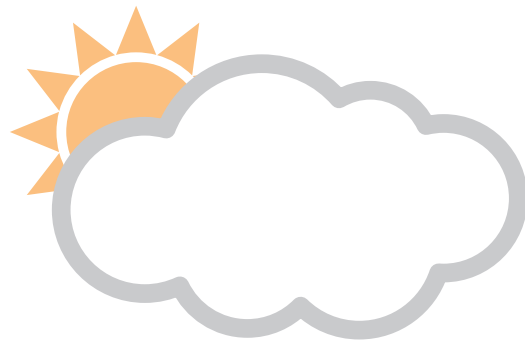
(%)

	前年同期	前 期	今 期	実施予定
製 造	8.7	17.4	17.4	26.1
卸 売	21.4	14.3	7.7	7.7
小 売	13.0	14.8	7.4	9.3
サービス	20.7	10.0	23.3	23.3
建 設	23.3	20.9	16.3	14.0
不 動 産	—	—	—	—
運 輸	17.6	17.6	17.6	11.8
農 業	11.1	3.7	3.7	11.1

2024年7月～9月期
設 備 投 資今後3ヶ月以内
設 備 投 資 計 画



製造業



概況

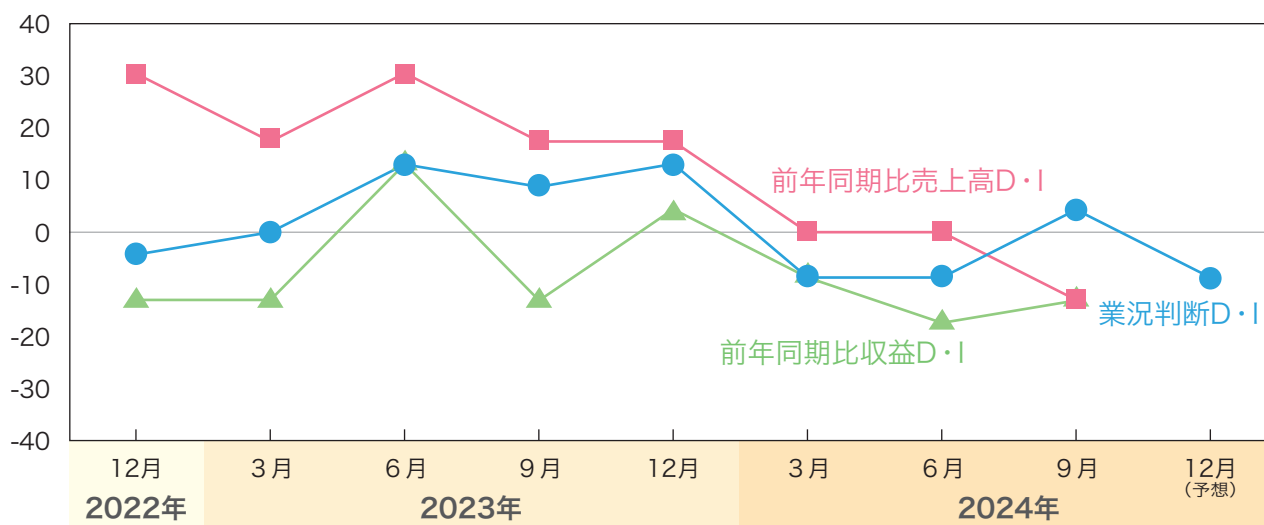
今期の業況判断指数（D・I値）は、4.3と前期（4月～6月）より13.0ポイント好転し、3期ぶりにプラス圏内へ転じました。窯業・土石製品製造業で下降、金属製品・食品製造業で改善となり、その他の業種は横這いでした。売上高D・I値は△13.0と前期比13.0ポイント悪化しました。収益D・I値は△13.1ポイントと前期比4.3ポイント改善しました。製造業においては、売上の鈍化に加え原材料費の高止まりもあって、厳しい状況が続きました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	8.7	△8.7	4.3	△8.7
売上高D・I	17.4	0.0	△13.0	—
収益D・I	△13.1	△17.4	△13.1	—

来期の見通しについて

食料品、窯業・土石製品及びその他の製造業で下降する見込みで、その他の業種では現状維持を見込み、製造業全体では今期実績から悪化する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・取引先の倒産が相次ぎ、今後売上げは下がる見通し。
- ・今期も受注安定し、増収増益基調で推移し、役員借入金の返済を実施する予定。
- ・会社全体で販路は確立されており、個人向け消費はほぼないため、インターネットの必要性については限定的である。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	原材料高 47.8%	原材料高 47.8%
第2位	人手不足 34.8%	売上の停滞・減少 39.1%
第3位	売上の停滞・減少 工場・機械の狭小・老朽化 26.1%	人手不足 30.4%

（複数回答）

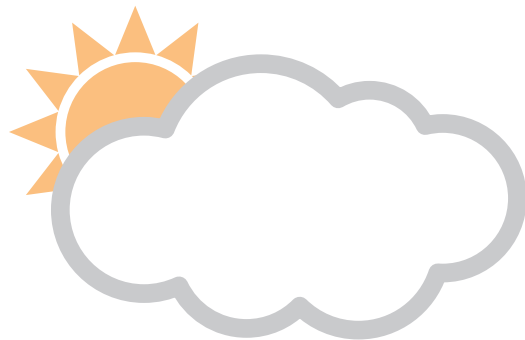
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人材を確保する 47.8%	販路を広げる 52.2%
第2位	販路を広げる 経費を節減する 43.5%	経費を節減する 47.8%
第3位	新製品・技術を開発する 21.7%	人材を確保する 30.4%

（複数回答）



卸売業



概 況

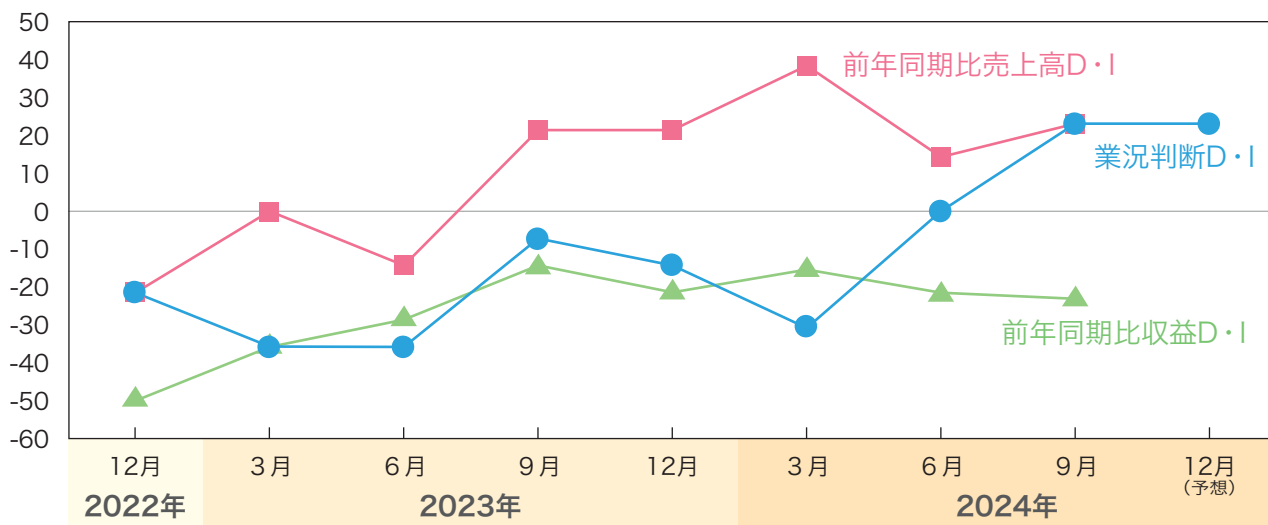
今期の業況判断指数（D・I値）は、23.1と前期（4月～6月）に比べ23.1ポイント上昇しました。特に農畜産物・水産物卸売業とその他の卸売業において上昇、食料・飲料卸売業で下降し、これ以外の卸売業は横這いでした。売上高D・I値は前期比で8.8ポイント好転しましたが、収益D・I値は同1.6ポイントの悪化となりました。仕入価格の上昇圧力が続いており、価格転嫁を含め採算性や販路拡大の課題が継続しました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△7.2	0.0	23.1	23.1
売上高D・I	21.4	14.3	23.1	—
収益D・I	△14.3	△21.5	△23.1	—

来期の見通しについて

農畜産物・水産物卸売業及びその他卸売業で下降を見込むものの、食料・飲料卸売業及び建築材料卸売業で上昇の見通しで、業界全体で今期と横這いの見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・秋以降に売上は集中。
- ・玉ねぎの販売好調。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人件費の増加 35.7%	利幅の縮小 46.2%
第2位	取引先の減少 売上の停滞・減少 28.6%	売上の停滞・減少 30.8%
第3位	利幅の縮小 天候の不順 21.4%	取引先の減少 人件費の増加 23.1%

（複数回答）

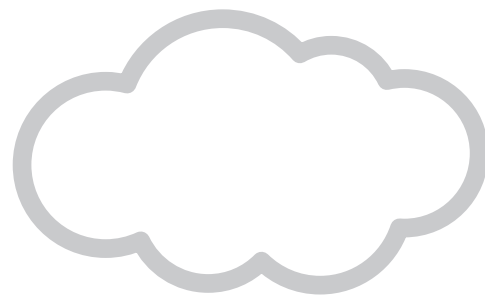
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 78.6%	経費を節減する 販路を広げる 61.5%
第2位	販路を広げる 57.1%	人材を確保する 38.5%
第3位	情報力を強化する 35.7%	流通経路の見直しをする 23.1%

（複数回答）



小売業



概況

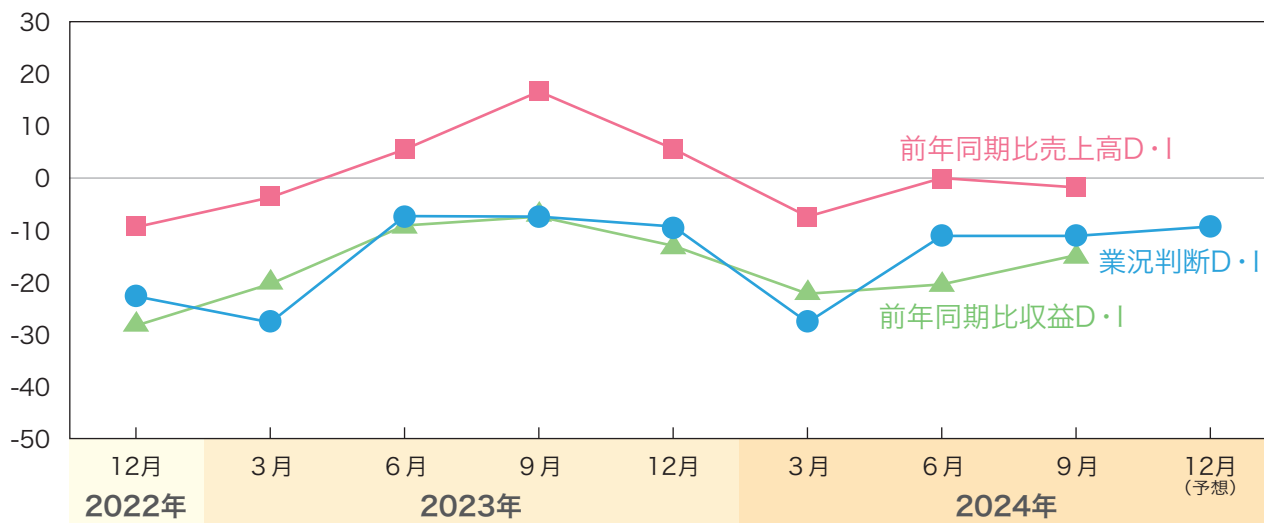
今期の業況判断指数（D・I値）は△11.1で前期（4月～6月）と横這いで推移し、冴えない業況が続きました。家具建具什器、家庭用機械器具及び燃料小売業で上昇し、飲食店、書籍文房具及びその他の小売業で悪化、他の業種では横這いでした。売上高D・I値は前期比で1.8ポイント下降、収益D・I値は同5.6ポイントの小幅ながら改善しました。商圏人口の減少や大型店との競争が続き、売上の確保と経費節減は恒常的な経営の課題となっています。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△7.4	△11.1	△11.1	△9.3
売上高D・I	16.6	0.0	△1.8	—
収益D・I	△7.4	△20.4	△14.8	—

来期の見通しについて

飲食店・家庭用機械器具及びスポーツ用品小売業で上昇の見込みですが、燃料その他の小売業でやや下降、他の小売業では横這いの見通しで、小売業全体では今期実績よりやや改善を見込んでおります。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・アドブルー^(注1)の販売数量増加。原油高継続により、増収基調。
(注1) ディーゼルエンジンの排出ガスをクリーンにするための高品位尿素水
- ・大量仕入れの大手量販店への対抗に苦慮している。
- ・少人数の宴会需要は回復しているが、大規模な会合は以前と比較し減っている。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	商圏人口の減少 55.6%	商圏人口の減少 48.1%
第2位	売上の停滞・減少 38.9%	大型店との競争激化 25.9%
第3位	商店街の集客力の低下 仕入先からの値上げ要請 18.5%	売上の停滞・減少 24.1%

(複数回答)

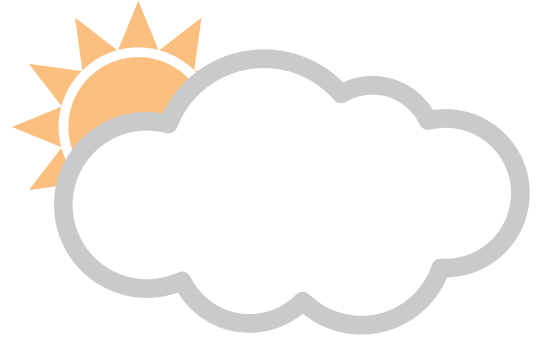
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 53.7%	経費を節減する 44.4%
第2位	商店街事業を活性化させる 売れ筋商品を取扱う 24.1%	商店街事業を活性化させる 27.8%
第3位	人材を確保する 22.2%	品揃えを改善する 24.1%

(複数回答)



サービス業



概況

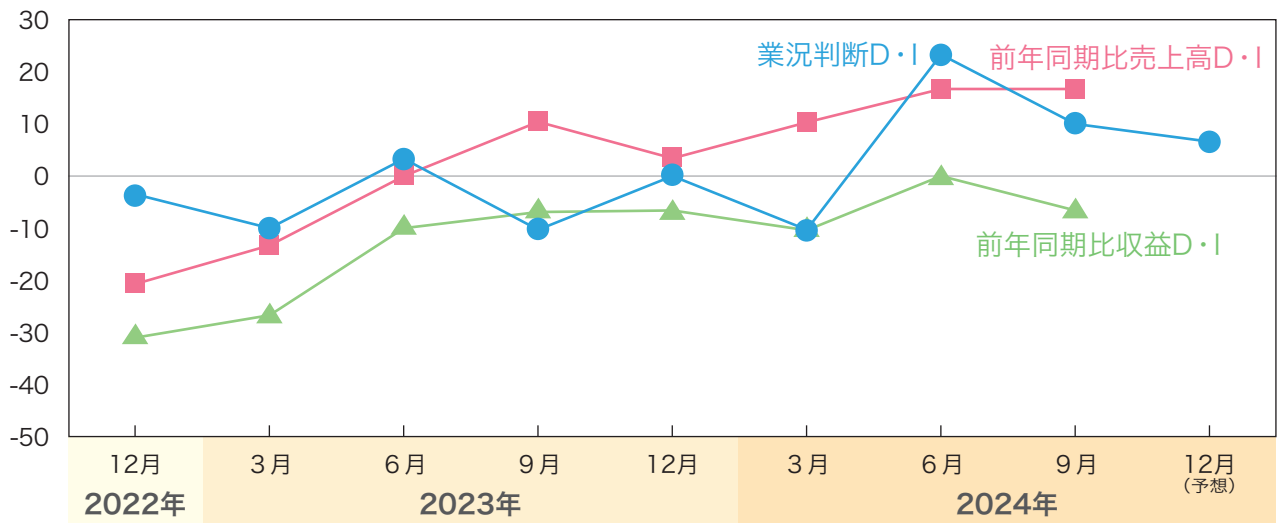
今期の業況判断指数(D・I値)は、10.0と前期(4月～6月)に比べ13.3ポイント悪化、頭打ちの状況ながら2期連続プラス圏内を維持しました。業種別においては物品賃貸業及びその他サービス業で落込み、他の業種は横這いでした。売上高D・I値は前期比同水準を維持、収益D・I値は前期比6.6ポイント下降しました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△10.3	23.3	10.0	6.6
売上高D・I	10.4	16.7	16.7	—
収益D・I	△6.9	0.0	△6.6	—

来期の見通しについて

物品賃貸業で上昇、自動車整備および駐車場業とその他サービス業でやや下降を見込み、洗濯・理容・浴場業で横這いとしています。サービス業全体では前期をやや下回る見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・町内移住者増加を見込み、売上増加を期待してる。
- ・売上は安定も材料仕入値の高騰への対応が課題。
- ・商圈農家等からの受注旺盛であり、売上増加傾向。人材不足しており、その確保が必要。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人手不足 37.9%	商圈人口の減少 33.3%
第2位	材料価格の上昇 商圈人口の減少 34.5%	材料価格の上昇 人件費の増加 人手不足 26.7%
第3位	人件費の増加 同業者間の競争の激化 売上の停滞・減少 24.1%	売上の停滞・減少 23.3%

(複数回答)

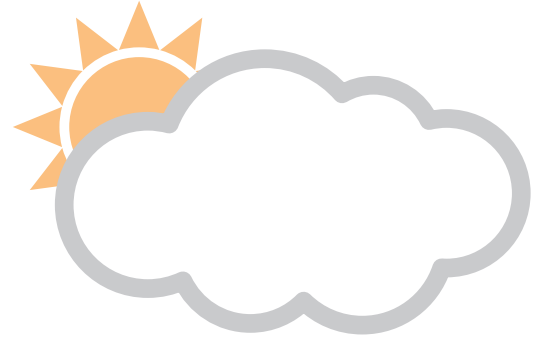
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	販路を広げる 48.3%	経費を節減する 56.7%
第2位	経費を節減する 44.8%	販路を広げる 46.7%
第3位	人材を確保する 34.5%	人材を確保する 33.3%

(複数回答)



建設業



概況

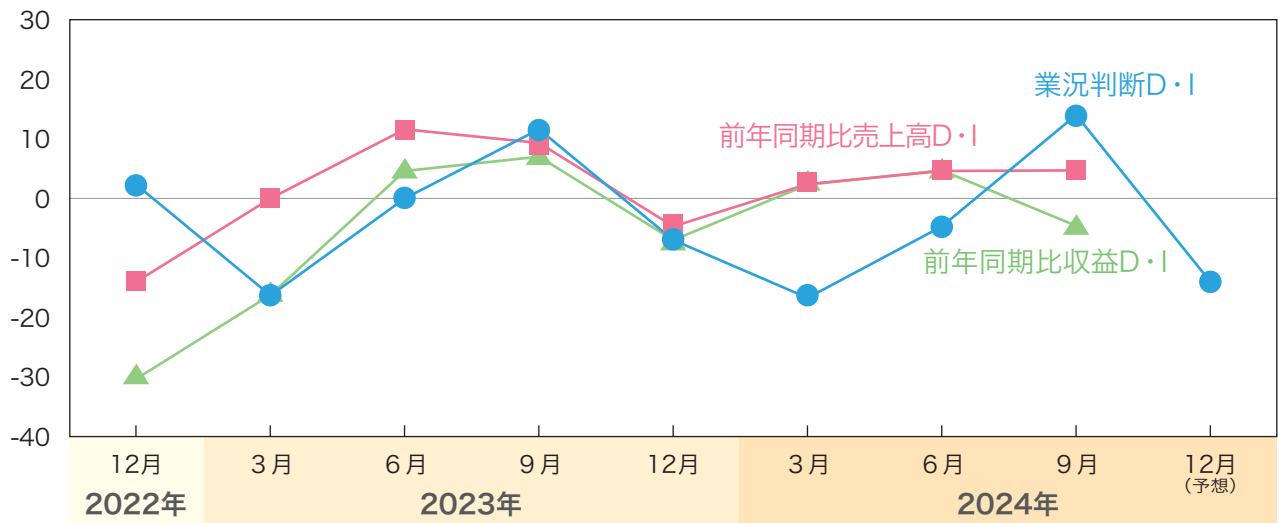
今期の業況判断指数（D・I値）は、14.0と前期（4月～6月）に比べ18.7ポイント改善しました。業種別では総合工事業で20.9、職別工事業で30.0のプラスとなり、設備工事業で11.1下降しましたが、全体では回復となりました。売上高D・I値は前期比0.1ポイントやや改善、収益D・I値は9.3ポイント下降し、仕入コストや人件費の価格転嫁はバラつきが窺われる状況と推察します。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	11.6	△4.7	14.0	△14.0
売上高D・I	9.3	4.6	4.7	—
収益D・I	7.0	4.7	△4.6	—

来期の見通しについて

総合工事・職別工事業及び設備工事業のすべてが下降の見込みで、全体ではマイナス圏内を予測しており、大きく悪化する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・札幌の都市再開発にかかる受注もあり、業況は堅調である。
- ・受注は確保できるが、人手不足は近時の悩みである。
- ・大型民間工事受注により業況は堅調。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	材料価格の上昇 65.1%	材料価格の上昇 60.5%
第2位	人手不足 46.5%	人手不足 46.5%
第3位	売上の停滞・減少 25.6%	売上の停滞・減少 25.6%

(複数回答)

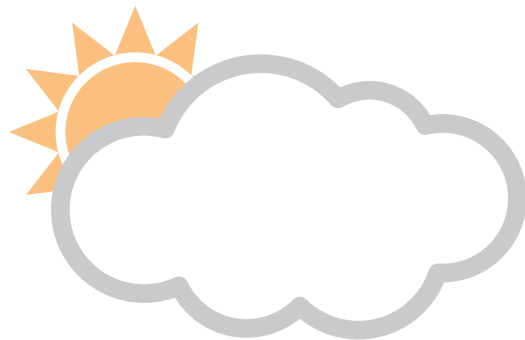
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人材を確保する 55.8%	人材を確保する 60.5%
第2位	技術力を強化する 46.5%	経費を節減する 46.5%
第3位	経費を節減する 41.9%	販路を広げる 41.9%

(複数回答)



不動産業



概況

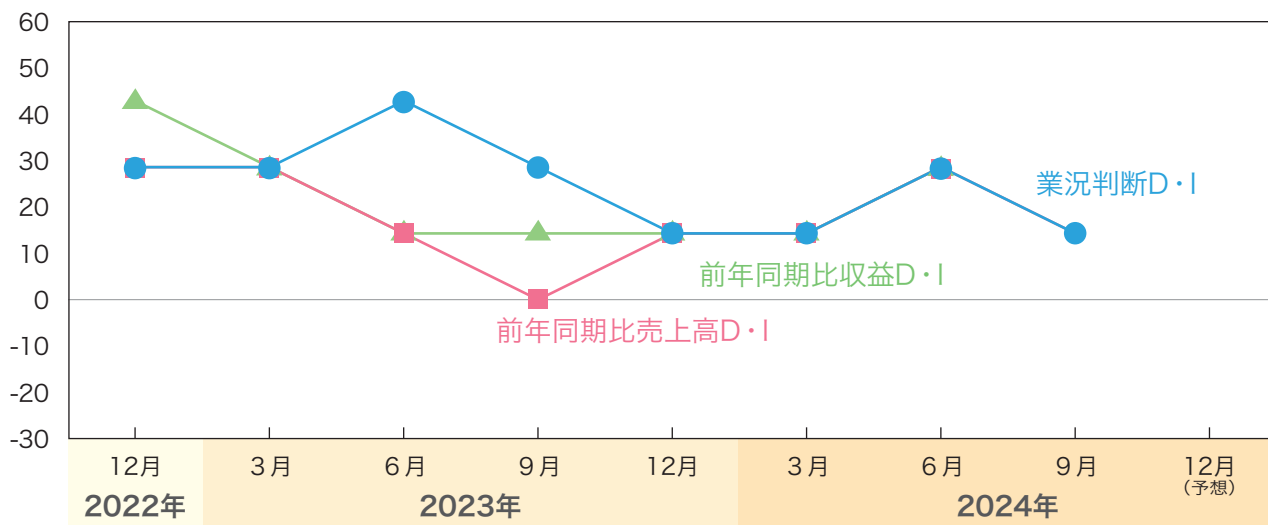
今期の業況判断指数（D・I値）は14.3で前期（4月～6月）比14.3ポイント下降しましたが、10期連続でプラス圏内は維持しました。売上高D・I値は前期比14.3ポイント、収益D・I値も前期比28.6ポイント下降しておりますが、前期は需要期で、その反動によるものと推察されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	28.6	28.6	14.3	—
売上高D・I	0.0	28.6	14.3	—
収益D・I	14.3	28.6	—	—

来期の見通しについて

不動産代理業・仲介業及びその他不動産業で下降、貸事務所・土地賃貸業、貸家・貸間業、その他不動産業で横這いを見通し、不動産業全体では悪化する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・テナントビルの入居状況が改善した。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	商品物件の縮小 人件費以外の経費の増加 42.9%	商品物件の高騰 人件費以外の経費の増加 42.9%
第2位	同業者間の競争の激化	商品物件の縮小 人手不足 28.6%
第3位	人件費の増加 28.6%	同業者間の競争の激化

（複数回答）

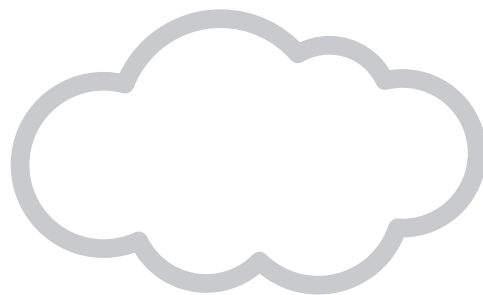
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 宣伝・広告を強化する 71.4%	経費を節減する 71.4%
第2位	販路を広げる 機械化を推進する 28.6%	宣伝・広告を強化する 42.9%
第3位	不動産の有効活用を図る 情報力を強化する 14.3%	情報力を強化する 販路を広げる 28.6%

（複数回答）



運輸業



概況

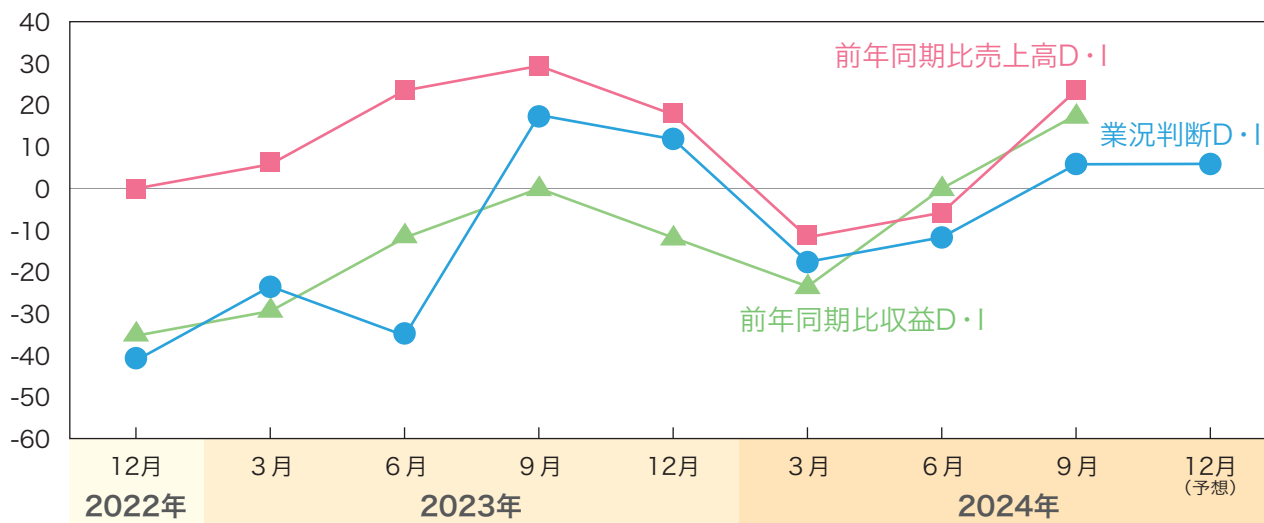
今期の業況判断指数（D・I値）は、5.8と前期（4月～6月）に比べ17.5ポイント改善し、3期ぶりにプラス圏内に転じました。業種別では全業種で上昇となりました。売上高D・I値は前期比で29.3ポイント、収益D・I値では同17.6ポイントの上昇となりました。運輸業では課題は多いものの、景況感の改善は売上増加、収益性の好転によるものと推察されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	17.6	△11.7	5.8	5.9
売上高D・I	29.4	△5.8	23.5	—
収益D・I	0.0	0.0	17.6	—

来期の見通しについて

貨物自動車運輸業・通運業はやや改善、その他の運輸・通信業では下降、ハイヤー・タクシー等旅客自動車業は今期と業況は変わらず、全体では今期と横這いの見通しとなっています。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・建設市況に業績が左右される。
- ・10～11月に車両入替を実施する予定。今後、車両のリース業を開始する計画である。
- ・人件費・修繕費等、費用の増加が収益を圧迫している。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	燃料価格の上昇 88.2%	燃料価格の上昇 82.4%
第2位	人手不足 82.4%	人手不足 64.7%
第3位	売上の停滞・減少 17.6%	売上の停滞・減少 35.3%

(複数回答)

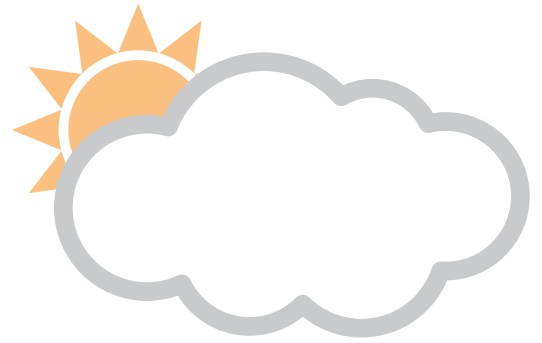
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 82.4%	経費を節減する 70.6%
第2位	販路を広げる 52.9%	人材を確保する 52.9%
第3位	人材を確保する 23.5%	労働条件を改善する 23.5%

(複数回答)



農業



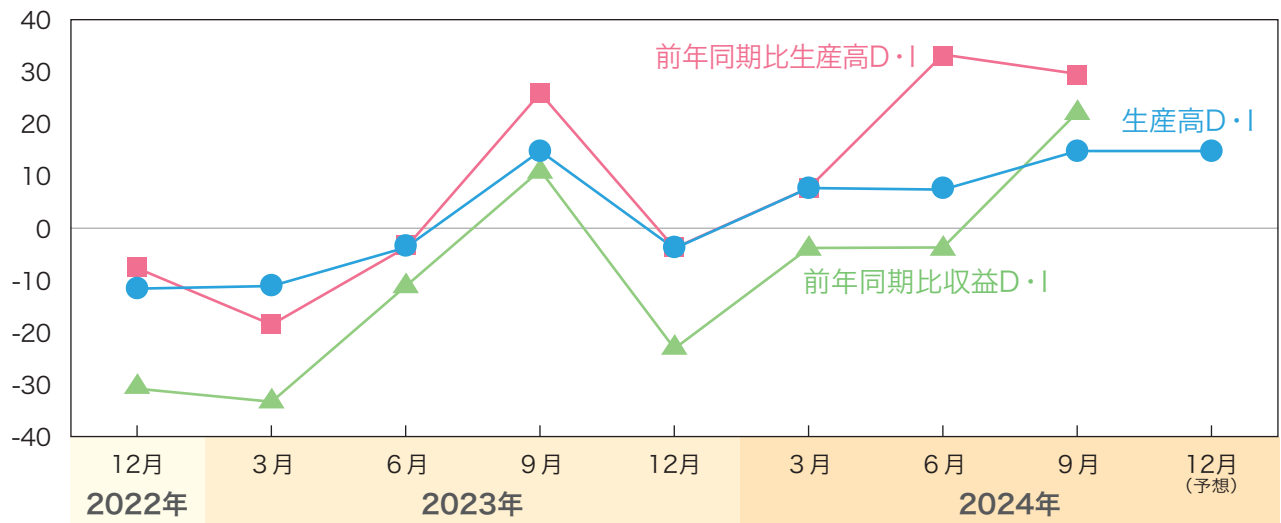
概況

米の品薄状況から新米集荷において、JAや商系業者で加熱した生産者への高い価格提示があり、前年より大幅に米単価が上昇したことから、生産高D・I値は前期（4月～6月）に比べ7.4ポイント上昇、収益D・I値も同25.9ポイント上昇しました。

今年度の生産物は全体的に生育が平年より早く進んでおり、水稻は平年より6日ほど早く、収穫期も7日程早く迎えました。その他の畑作物においても収穫期が早まっております。依然として生産費は高く推移しておりますが、米などの単価は昨年より増額となっており生産者の増収、増益が期待されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
生産高D・I	14.8	7.4	14.8	14.8
前年同期比生産高D・I	25.9	33.3	29.6	—
収益D・I	11.1	△3.7	22.2	—

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・前年より単価上昇、売上は増加の見込み。
- ・肥料、燃料のコストが上がってきている。
- ・米の買取価格上昇による増収が見込まれる。昨年に比べ、天候も安定していたことから、収量増加傾向。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	生産資材等価格の上昇	59.3%	経費の増加	63.0%
第2位	経費の増加	55.6%	生産資材等価格の上昇	48.1%
第3位	人手不足 生産者価格の低迷 機械・設備の値上がり	33.3%	機械・設備の値上がり	37.0%

（複数回答）

特別調査

中小企業におけるデジタル化と キャッシュレスへの対応について

当金庫が今回実施致しました第153回中小企業景気動向調査と併せて（運輸業と農業を除く）170先について「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」をアンケート調査した結果です。

問1. 貴社では、事業上の情報収集・情報発信等において、パソコンやスマートフォン等でインターネットを利用していますか。以下の1～4の中から1つ選んでお答えください。また、同様に事業上で電子メールを利用していますか。あてはまるものを以下の5～7の中から1つ選んでお答えください。

インターネットの利用		電子メールの利用						
インターネット の利用	1 利用しており、自社ホームページも開設	47.8%	46.2%	40.7%	50.0%	44.2%	71.4%	45.9%
	2 利用しているが、自社ホームページは未開設	47.8%	53.8%	24.1%	30.0%	37.2%	14.3%	33.5%
	3 利用していないが、今後利用したい	4.3%	0.0%	7.4%	3.3%	4.7%	0.0%	4.7%
	4 利用することは考えていない	0.0%	0.0%	27.8%	16.7%	14.0%	14.3%	15.9%
	小 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
電子メール の利用	5 利用している	78.3%	84.6%	77.8%	90.0%	86.0%	85.7%	82.9%
	6 利用していないが、今後利用したい	8.7%	7.7%	3.7%	3.3%	2.3%	0.0%	4.1%
	7 利用することは考えていない	13.0%	7.7%	18.5%	6.7%	11.6%	14.3%	12.9%
	小 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

事業先の情報収集・情報発信において、インターネット利用率は79.4%（自社ホームページを開設・未開設含む）、未利用率（今後利用したい・今後も利用しないを含む）は20.6%となっております。業種別のインターネット利用率は、卸売業で100%と最も高く、以下製造業95.6%、不動産業85.7%と続きました。反面、小売業では64.8%に止まっております。

電子メール利用率は82.9%、未利用率（今後利用したい・今後も利用しないを含む）は17.0%となっております。業種別の利用率では、サービス業で90.0%と最も高く、以下建設業86.0%、不動産業85.7%と続きました。一方で、製造業・小売業では80%以下となっております。

問2. 貴社では、インターネットバンキングを契約していますか。契約している方は、契約している主な理由または状況を1～5の中から1つ選んでお答えください。契約していない方は、契約していない主な理由を6～0の中から1つ選んでお答えください。

契約している		契約していない						
契約している	1 夜間や休日でも利用できる	13.0%	46.2%	14.8%	13.3%	23.3%	14.3%	18.8%
	2 社内全体のIT化・事務負担軽減	17.4%	15.4%	5.6%	23.3%	25.6%	57.1%	18.2%
	3 残高管理が容易である	21.7%	15.4%	16.7%	20.0%	23.3%	0.0%	18.8%
	4 金融機関の店舗に行く必要がない	8.7%	7.7%	3.7%	3.3%	9.3%	14.3%	6.5%
	5 契約しているがほぼ使っていない	8.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
	小 計	69.6%	92.3%	40.7%	60.0%	81.4%	85.7%	64.1%
契約していない	6 金融機関職員が訪問するから不要	17.4%	0.0%	14.8%	13.3%	9.3%	0.0%	11.8%
	7 パスワード管理等操作が面倒	4.3%	0.0%	1.9%	3.3%	0.0%	0.0%	1.8%
	8 セキュリティに不安がある	0.0%	0.0%	5.6%	3.3%	4.7%	0.0%	3.5%
	9 利用する機会がない	8.7%	7.7%	33.3%	20.0%	2.3%	14.3%	17.1%
	0 インターネット利用環境がない	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	2.3%	0.0%	1.8%
小 計		30.4%	7.7%	59.3%	40.0%	18.6%	14.3%	35.9%

事業先のインターネットバンキングの契約率は64.1%、未契約率は35.9%となっております。契約している主な理由は、「残高管理が容易」「夜間や休日でも利用できる」がそれぞれ18.8%、次に「社内全体のIT化・事務負担軽減」が18.2%と続きました。業種別のインターネットバンキング契約率は、卸売業で92.3%と最も高く、以下不動産業85.7%、建設業81.4%と続きました。一方、小売業では40.7%に止まっております。

契約していない主な理由は、「利用する機会がない」17.1%、次に「金融機関職員が訪問するから不要」が11.8%と続きました。業種別の未契約率は、小売業で59.3%と最も高く、以下サービス業40.0%、製造業30.4%と続きました。

問3. 7月に実施された新紙幣の発行に伴い、貴社では何らかの対応（設備投資など）を実施しましたか。以下の1～3からお答えください。また、新紙幣導入を機にキャッシュレス支払手段の導入または強化をしましたか。以下4～7からお答えください。

新紙幣発行に伴う対応		キャッシュレス支払手段						
新紙幣発行に伴う対応	1 対応した							
	2 対応の必要性を感じているが、まだ対応していない							
	3 対応の必要性を感じていない							
	小計							
キャッシュレス支払手段	4 既に導入済みでさらに強化した							
	5 既に導入済みで強化はしていない							
	6 新たに導入した							
	7 導入していない							
	小計							

事業先の新紙幣の発行に対する対応では、「対応した」は23.5%に止まり、「対応していない（対応の必要性を感じる・感じていないを含む）」が76.4%となりました。業種別の「対応した」を見ると、サービス業の40.0%が最も高く、次に卸売業30.8%と続きましたが、他の業種は全て30%未満でした。

新紙幣導入に伴うキャッシュレス支払手段については、「導入していない」が55.3%と半数を超えております。業種別では、製造業で82.6%と最も高く、以下不動産業71.4%、建設業65.1%と続いております。

問4. 貴社では、取引先や顧客との決済にあたって、現在、どのようなキャッシュレス支払手段を活用していますか。主に活用しているキャッシュレス支払手段を以下の1～9の中から3つ以内で選んでお答えください。活用していない方は0とお答えください。

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 クレジットカード	30.4%	38.5%	63.0%	53.3%	37.2%	28.6%	47.1%
2 デビットカード	4.3%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
3 QRコード決済	17.4%	0.0%	29.6%	10.0%	2.3%	28.6%	15.3%
4 電子マネー（交通系・流通系）	4.3%	0.0%	16.7%	13.3%	0.0%	0.0%	8.2%
5 プリペイドカード	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	2.3%	0.0%	1.2%
6 デジタル通貨（地域電子通貨・暗号資産）	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
7 口座振替（自動引落）サービス	30.4%	7.7%	14.8%	26.7%	32.6%	0.0%	22.4%
8 電子記録債権（でんさい等）	21.7%	0.0%	1.9%	13.3%	14.0%	0.0%	9.4%
9 その他（ ）	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
0 活用していない・関係ない	43.5%	61.5%	29.6%	36.7%	46.5%	71.4%	41.2%
小計	152.2%	107.7%	163.0%	153.3%	134.9%	128.6%	147.1%

（複数回答）

事業先のキャッシュレス支払手段の方法では、「クレジットカード」が47.1%で最も高く、以下「口座振替サービス」が22.4%、「QRコード決済」15.3%と続きました。

「活用していない・関係ない」と回答した事業先は41.2%となっており、業種別では不動産業で71.4%と最も高く、以下卸売業61.5%、建設業46.5%と続きました。

問5. 問4の1～9で挙げたキャッシュレス支払手段について、導入している方は感じている不満を、導入していない方は導入していない理由を以下の1～10の中から3つ以内で選んでお答えください。

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 初期費用が高い	17.4%	7.7%	0.0%	16.7%	4.7%	0.0%	7.1%
2 手数料が高い	34.8%	30.8%	40.7%	40.0%	20.9%	14.3%	32.9%
3 セキュリティが不安	4.3%	23.1%	1.9%	3.3%	9.3%	0.0%	5.9%
4 決済手段が多すぎて何をすべきかわからない	17.4%	0.0%	3.7%	6.7%	0.0%	0.0%	4.7%
5 キャッシュレスに対応していない取引先がある	8.7%	0.0%	5.6%	6.7%	4.7%	0.0%	5.3%
6 災害や障害時に利用不能になる	8.7%	15.4%	13.0%	6.7%	11.6%	0.0%	10.6%
7 現金化までに時間がかかる	13.0%	15.4%	25.9%	20.0%	4.7%	0.0%	15.9%
8 個人情報などのデータ管理が煩雑	8.7%	0.0%	1.9%	6.7%	2.3%	0.0%	3.5%
9 わかる人がいない	4.3%	0.0%	5.6%	10.0%	2.3%	0.0%	4.7%
0 不満などはない	30.4%	30.8%	27.8%	13.3%	51.2%	85.7%	34.1%

（複数回答）

事業先がキャッシュレス支払手段に対して感じている不満及び導入していない理由では、「手数料が高い」が32.9%で最も高く、以下「現金化までに時間がかかる」が15.9%、「災害や障害時に利用不能になる」10.6%と続きました。

また、「不満などはない」は34.1%となっております。

主要経済指標

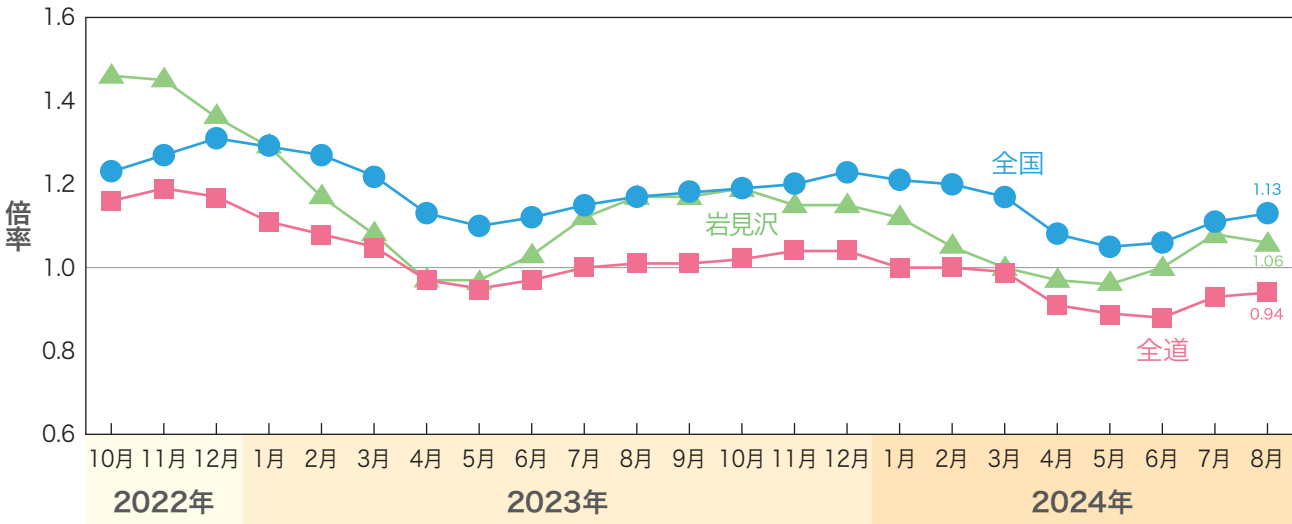
1. 空知管内・江別の人口動向

(人)

	2023年				2024年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
岩見沢市	75,831	75,710	75,626	75,541	75,414	75,279	75,034	74,922	74,823	74,602	74,672	74,740
美 唄 市	19,099	19,079	19,038	18,985	18,930	18,883	18,812	18,782	18,747	18,628	18,675	18,720
三 笠 市	7,510	7,496	7,476	7,465	7,450	7,406	7,371	7,381	7,370	7,348	7,349	7,364
栗 山 町	10,950	10,938	10,922	10,906	10,886	10,846	10,801	10,809	10,801	10,722	10,738	10,778
南 幌 町	7,730	7,747	7,753	7,785	7,792	7,803	7,844	7,875	7,869	7,904	7,892	7,889
由 仁 町	4,688	4,676	4,667	4,662	4,642	4,642	4,626	4,610	4,591	4,562	4,578	4,578
長 沼 町	10,101	10,075	10,083	10,058	10,058	10,043	10,012	10,013	10,009	10,013	10,023	10,009
江 別 市	118,778	118,798	118,750	118,695	118,586	118,518	118,237	118,328	118,294	118,156	118,192	118,263

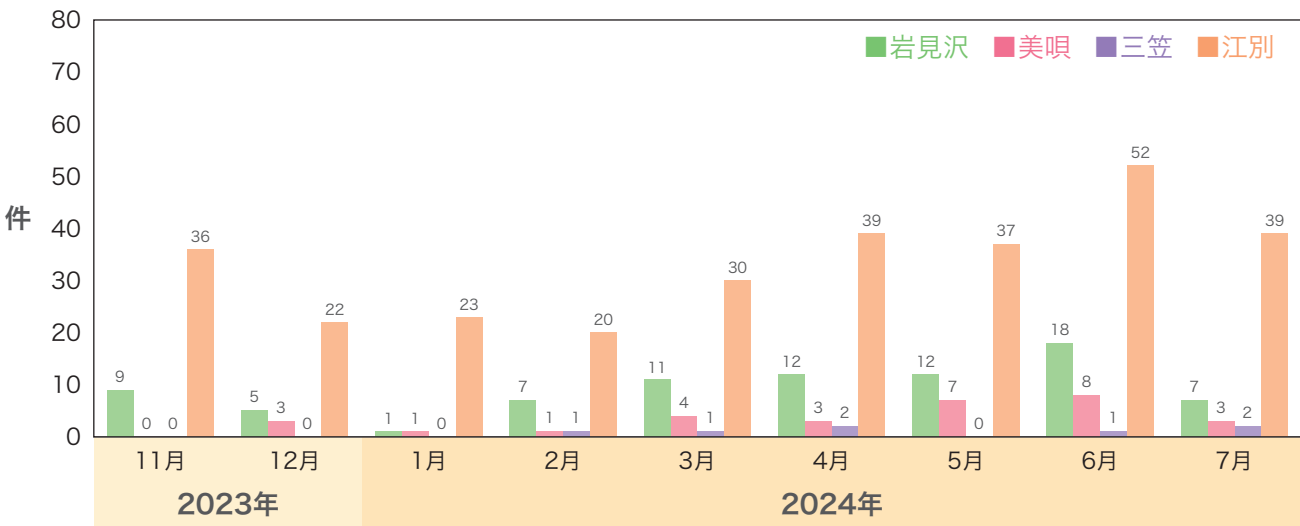
(資料：空知総合振興局)

2. 岩見沢管内の有効求人倍率



(資料：北海道労働局)

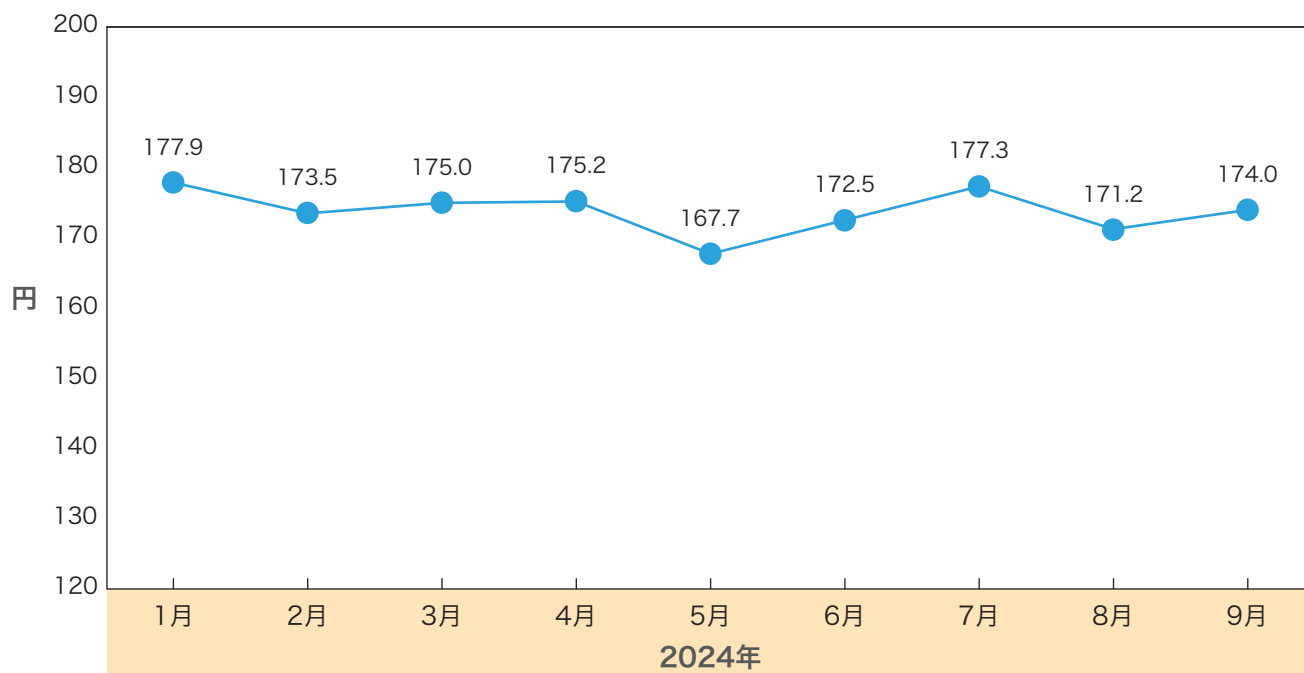
3. 建築確認申請数(4号) ※4号…木造2階建て以下の建築物



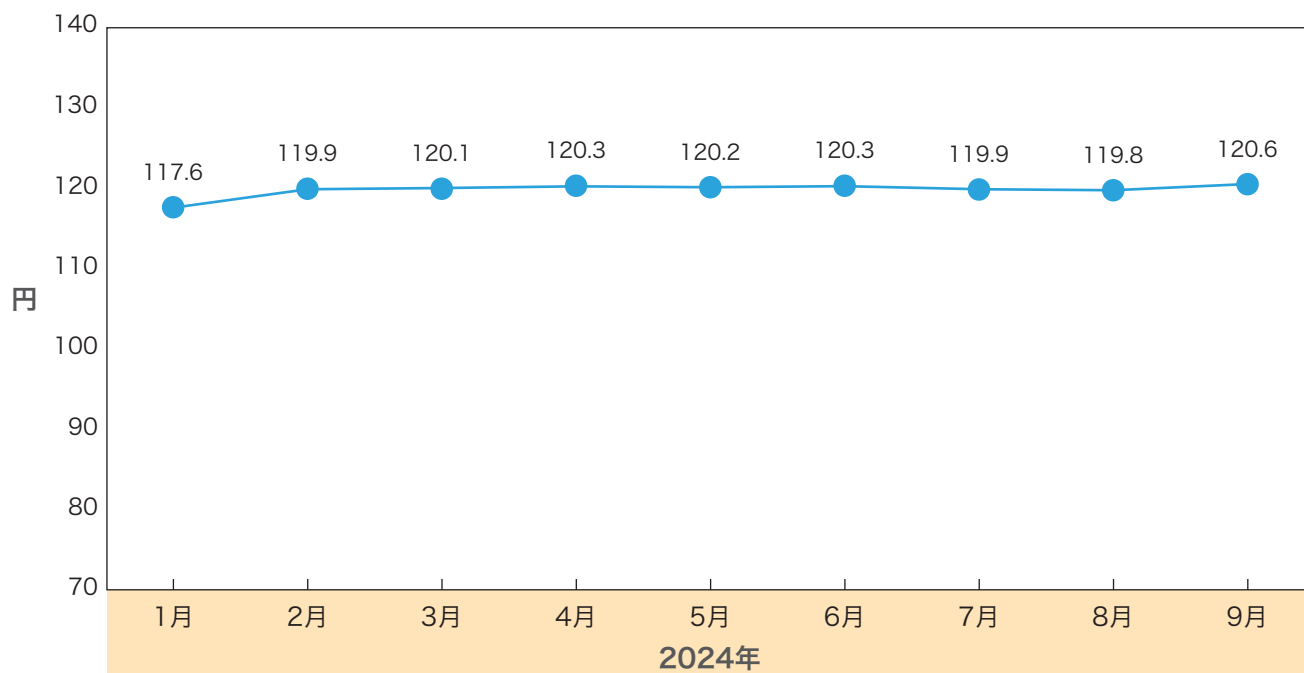
4. 管内のガソリン価格・灯油価格

(岩見沢市・美瑛市・三笠市・江別市・栗山町の平均を算出したもの)

① ガソリン



② 灯油



(資料：北海道消費者協会)

ビジネスマッチングコーナー

このコーナーでは、空知信用金庫のお取引先企業様をご紹介します。皆様の販路拡大やビジネスの連携をサポートする「誌上ビジネスマッチング」の場として、お役立てください。お問い合わせは、直接掲載企業もしくは、当金庫 地域支援部までご連絡ください。

ふぁーむ よねた

取引店：南幌支店

私たち、ふぁーむよねたは「本当に良いきくらげを皆様に知っていただき、食べてもらいたい」という思いから北海道内では数少ない生・乾燥きくらげの栽培と販売を行っております。菌床など材料すべて北海道産にこだわり、きくらげのみずみずしさと肉厚で程よい弾力のある食感を大事にするために換気・加湿・散水に細心の注意を払い栽培しています。生きくらげは沸騰したお湯で20秒間茹で、氷水で軽く締めた後、食べやすい大きさに切っていただき醤油で「お刺身きくらげ」として召し上がっていただくとプリっとした食感を楽しんでいただけます。その他、生・乾燥きくらげの両方、酢の物、サラダ・炒め物など栄養が多く、何にでも合う万能な食材です。生きくらげは6月下旬から10月末まで、乾燥きくらげは1年間を通して提供可能です。店頭での販売、TEL、Instagramでの商品購入を受付しておりますので気軽にご相談ください。



〒069-0238 空知郡南幌町元町2丁目1-6

担当者：米田 公代 様

Tel 080-1879-0560

Instagram <https://www.instagram.com/nanporo.kikurage?igsh=azg2ZjJycW9mbjlu>

E-mail farm.yoneta@gmail.com

空知信用金庫の社会的取組

空知信用金庫では、地域のお客様を直接サポートする機能強化を図るため、平成29年4月、地域支援室を立ち上げ、令和3年3月より地域支援部となりました。

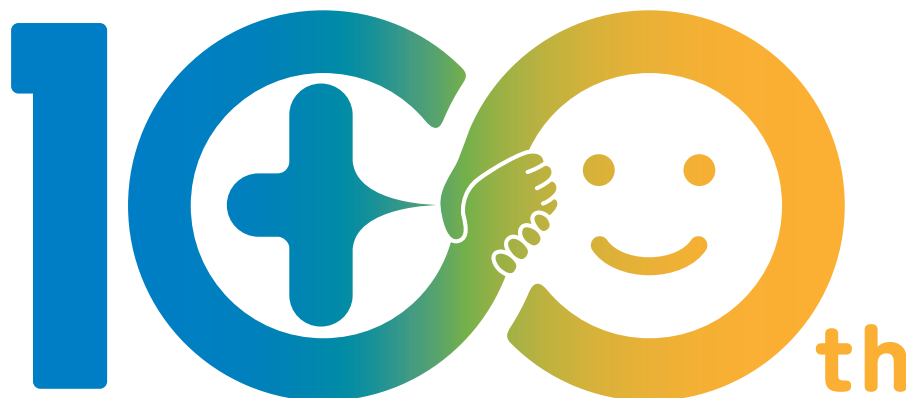
地域支援部では、以下のような事業や取組みを行っております。

空知信用金庫杯 学童野球大会 (令和6年7月13・14日)

野球を愛好する多くの子供たちに競技の機会を設け、スポーツを通じて健康で明朗な心身の推進・育成を図ることを目的とし2日間にわたり岩見沢市内にて開催されました。南空知管内から8チームに参加いただき、猛暑の中、白熱した試合が繰り広げられました。



100年の感謝とともに
新たな歴史を皆さまと



空知信用金庫は、
令和7年1月6日
創立100年を迎えます。

■本店の変遷



昭和7年



昭和12年



昭和29年



現在



明るく大きく豊かに

空知信用金庫 設立／1925年(大正14年)1月6日

LINEでそらちしんきんと友だちになろう!

様々な情報をLINEでお届け!



<https://www.shinkin.co.jp/sorachi/>